



# ことば便り

墨田区立押上小学校  
校長 島田 和久  
ことばの教室 No.6  
TEL 03-3617-6925  
令和6年10月1日(火)

朝・夕がようやく涼しくなり、暑い夏を乗り越え、秋の訪れを感じます。やっと外遊びもできるようになりますね。これから秋も深まります。葉の色などの自然の変化を楽しんだり、スポーツの秋や芸術の秋を楽しんだりしたいものです。

寒暖差が大きい時もあります。服装に気を付け、インフルエンザなどにならないように、うがいや手洗いなどをしっかりし、健康管理に気を付けて充実した1日1日にしていきたいと思います。

さて、10月11日(金)で前期の通級指導が終了します。保護者の皆様や在籍学級担任の先生方には、いろいろとご協力いただき、誠にありがとうございます。

後期の通級指導は16日(水)からです。引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 10・11月の行事予定

10月

- 4日(金) 前期通級終了
- 7日～11日 保護者面談期間
- 8日(火) 都難言協江東ブロック研究会(午後)
- 11日(金)前期終業式
- 15日(火)後期始業式、  
都難言協専門研究会(午後)
- 16日(水)後期通級開始  
グループ活動(吃音)(15時半～16時半)
- 17日(木)押上小研究発表前日準備  
※午後の通級はお休みです
- 18日(金)押上小研究発表※午後の通級はお休みです
- 25日(金)専門家診断(午前)  
押上小就学時健診(午後)  
※指導は全日お休みです



11月

- 4日(月)振替休日
- 5日(火)都難言協江東ブロック研究会(午後)
- 11日(月)専門家診断  
※指導は全日お休みです
- 13日(水)グループ活動(吃音)(15時半～16時半)
- 15日(金)押上小音楽会(児童鑑賞日)
- 16日(土)押上小音楽会(保護者鑑賞日)
- 18日(月)押上小展覧会振替休業日  
※指導は全日お休みです
- 26日(火)通級指導学級研究会(午後)



## 学習発表会&お楽しみ会 を行います!! 参加の予定をお願いします。

日時 12月18日(水)  
14:50受付開始  
15:10～16:30  
場所 押上小(後日お知らせ)

通級児童も37名となり、当日は個人それぞれの発表は難しいため、読み書きが苦手な児童はポスターやプログラムの制作をしたり、吃音グループの児童は出し物を皆で考えて当日に披露したり、個別指導で学習したことをクイズに出したりと、発表の仕方を工夫して実施します。お楽しみのゲームも予定しています。参加を予定しておいてください。

## グループ活動（吃音）の効果について



吃音の個別指導では、吃音について学び、自己の吃音について考えたり、発話調整や流暢に話す体験をしたり、自信を育てたりする指導を行っています。加えてグループ活動では、以下の内容のことができ、効果が期待できます。

### ○自分以外の吃音のある子どもがいることを実感できる。

吃音のある子どもが抱く感情や体験は、時にクラスメイトや家族にも理解されていないと感じてしまうこともあります。グループ学習では自分以外にも吃音のある人の存在を知ることができ、言葉の出づらさや悩みをわかち合えることで、強い安心感が得られることが多いです。実際、個別の指導でグループ活動について振り返ると、「みんなもってて、一緒によかった」「自分以外にも吃音がある子と会えてほっとした」などの声を多く聞きます。また、高学年や自分より上の学年の児童から吃音でからかわれた時にどのように対応したのかを聞いて参考になったと言う児童もいるように、他の児童の経験から学ぶことができます。そして、学校生活の中で、悩みを相談する側の新入生は中高学年の児童から経験を伝えられ、高学年になると、今度は悩みを受け取る側となり、次の新入生へと引き継がれていく、このような役割交代が行えることもグループ活動の重要な側面です。

### ○吃音を恐れのない環境で、吃音のある子ども同士だからできる会話やその内容

グループ学習では、吃音を周囲に隠す必要がありません。そのため、吃音を気にせず、話すことへの恐怖が減り、吃音が出てもしっかり発言や発表が行いやすい環境です。これまで閉じ込めてきた自分の思いを吐き出したり、自分も同じだよと共感したり、共感してもらったりする中で、自分だけだと思つた孤立から脱却し、吃音にとらわれた自分からも解放されるかもしれません。昨年度、グループ活動で紙芝居「学芸会がいやで隠れたＹくん」を読んだり、「吃音サマーキャンプ」という、吃音のある小学生や中学生で行った合宿を記録したVTRを視聴したりした後に感想を話し合うと、自分もこんな嫌な思いをしたと言ったり、「その気持ち分かる！」といった共感する言葉が飛び交ったりしました。今年度も自分たちの率直な気持ちを出せるように指導・支援していきます。

ことばの教室では、個別指導やグループ活動を通して、児童が「どもっていても平気」「自分にはこんないいところがある」と自信をもてるように指導を行います。

参考文献：『吃音のグループ学習』（石田修・飯村大智 著）

## 吃音を理解するためのオススメ映画

（映画）「英国王のスピーチ」

（トム・フーパー監督、デヴィッド・サイドラー脚本、コリン・ファース主演、シー・ソウ・フィルムズ、ベッドラム・プロダクションズ制作、2010）

【あらすじ】

第2次世界大戦の際、イギリス国王で吃音のあったジョージ6世と言語聴覚士ライオネルとの間に育まれた友情と、吃音がありながら戴冠式やナチスドイツとの開戦を伝えるラジオ演説に取り組む姿を描いた作品です。脚本は、自らも吃音のあるデヴィッド・サイドラー氏が担当しています。吃音のために「自分には王の資格がない」と悩むジョージ6世が「I have a voice（私には、伝えるべきことがある）」という言葉には、吃音がありながら自らの運命を受け入れようとする強い決意と勇気が表れています。

【感想】

ジョージ6世が、重要なスピーチをする場面で声が出なくて、悔しさと悲しみに沈む姿や、思い通りに話せなくてライオネルに八つ当たりをする場面は、吃音で悩み苦しむ人の気持ちを想像させる描写がされていて、胸が詰まる思いで見えていました。言語聴覚士のライオネルとジョージ6世の強い友情、信頼関係があったからこそ、ジョージ6世が吃音に向き合い、自分の人生に向き合うことができたのではないかと思います。とても感動しました。そして、これからも更に児童との信頼関係を築いて、児童が自信をもてるように指導に当たっていきたいという気持ちが湧き出るような作品でした。是非一度ご覧ください。

